



平成11年7月16日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所2号機の点検・作業状況について（作業状況、今後の予定）

当社、敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉：定格出力116.0万KW）は、定格出力運転中のところ、7月12日午前6時05分、原子炉格納容器内のC、Dループ室前通路の火災報知器が発報するとともに、格納容器内サンプ水位上昇率高の警報が発報、1次冷却水の充てん流量の増加や格納容器じんあいモニタ等の上昇が確認されたことから、格納容器内で1次冷却水が漏れいしているものと判断し、午前6時24分から手動で出力を降下、午前6時48分電気出力8.1万KWで原子炉を手動停止した。なお、排気筒モニタ及び環境の放射線モニタについては、変化は認められていないことから、周辺環境への放射能の影響はない。

漏れい状況調査として、7月12日18時45分から格納容器内の立ち入り調査を行った結果、Cループ室通路側に設置された化学体積制御系再生熱交換器1台（全3台）の抽出側配管部で漏れいが確認された。このため、抽出系統配管の隔離操作（弁の閉止操作）を20時16分に完了し、20時29分漏れい停止を確認した。また、23時30分からは当該漏れい箇所を特定するため、漏れいが確認された化学体積制御系再生熱交換器の抽出側配管の保温材を取り外し、配管外観目視点検を行った結果、長さ約80mの割れが確認された。

一方、漏れい水については同日22時より24時及び7月13日6時から8時にかけて液体廃棄物処理系への移送を行った。

<7月12日10時、17時43分、7月13日9時30分発表済>

その後の漏れい状況調査で、7月13日15時40分に漏れい量は約51m³であることを確認した。また、7月14日15時25分から15日14時50分にかけて除染作業を行い、現地調査が開始できる状況となったことから、当該配管（エルボ部）切断のための準備作業を実施した。今後は、当該部切断前（据付け状態）の調査を実施し、当該部を切断して民間調査機関で詳細調査を実施する予定である。

なお、比較調査のため、他のエルボ1本（比較エルボ）も併せて切断・移送する。

(通商産業省による I N E S の暫定評価尺度)

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
－	－	1	1

以上

敦賀発電所 2 号機格納容器内漏えいに伴う詳細調査計画

敦賀発電所 2 号機 格納容器内漏えいに伴う詳細調査を下記の内容にて実施する。

調査内容

(1) 現地調査内容

1) 配管表面付着物測定

当該エルボ部分及び対象調査エルボ部（3 箇所）について、配管表面の付着物を分析する。

2) 外観観察

当該部の外面観察（写真撮影、スケッチ）を行い、損傷部の寸法（長さ、幅）及び位置関係、金属表面の状態を確認する。

3) 寸法測定

切断前に当該連絡配管の寸法測定を実施する。

4) 固有振動数測定

当該連絡配管及び他連絡配管（1 本）の固有振動数を測定する。

5) 拘束力状態の確認

①変位量測定

当該エルボ切断を行い、切断後の配管の変位量を測定する。

②熱交換器支持脚と架台との拘束状態確認

熱交換器支持脚と架台との状況を目視にて確認する。

6) 内外面観察

当該エルボを切断した後、内面及び外面の外観観察を行う。

以上

添付資料 1	敦賀発電所 2 号機 化学体積制御系再生熱交換器からの漏えいに係る点検調査工程表（予定）
添付資料 2	再生熱交換器配管損傷部

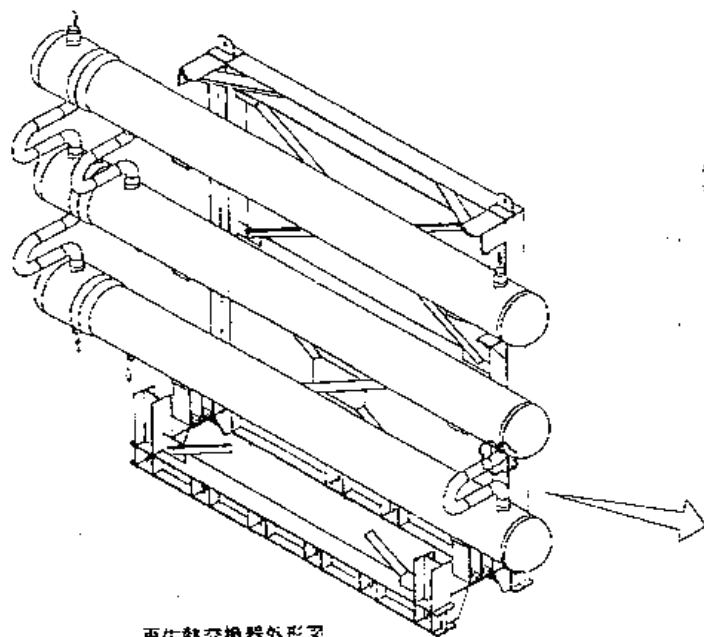
添付資料 1

平成11年7月16日
日本原子力発電(株)

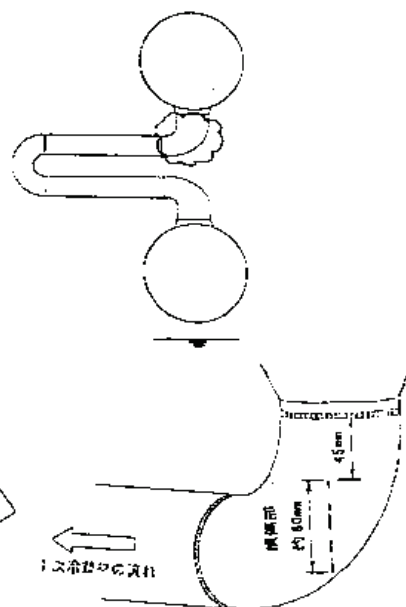
敦賀発電所2号機 化学体積制御系再生熱交換器からの漏えいに係る点検調査工程表(予定)

月 日 曜日	7				
	16	17	18	19	20
	金	土	日	月	火
点検・調査	配管表面付着物測定、外観観察				
		寸法測定、固有振動数測定			
			配管切断[当該エルボーと比較エルボー]、拘束力状態の確認		
				内面観察、試料梱包	
				▽発電所 発 民間調査機関 着 →▽	

再生熱交換器配管損傷部



再生熱交換器外形図



拡大図